2017年度弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター企画展

# 大山王田展

北上川下流域に華開いた漆の文化から弥生文化へ

小川忠博 撮影

共同研究「青谷上寺地遺跡からみた弥生時代のイネ品種分析」企画

## 特別講演会　東と西の弥生社会

## 山陰の弥生集落像
## ー鳥取県青谷上寺地遺跡と妻木晩田遺跡ー

鳥取県埋蔵文化財センター
青谷上寺地遺跡調査整備担当　濱田竜彦　氏

**2017年10月28日(土)**
**15:00～16:00**

【会　場】弘前大学人文社会科学部4F 視聴覚ルーム
【参加費】無料
【協　力】鳥取県埋蔵文化財センター

**2017年10月7日(土)～11月12日(日)**

**10:00～16:00　入場無料　期間中無休**

会場／弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター展示室（総合教育棟2階）
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地　Tel 0172-39-3190

主催／弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
共催／栗原市教育委員会

http://human.co.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/kitanihon.html

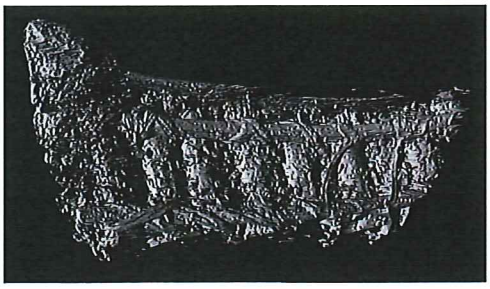
10/28・29は弘前大学総合文化祭期間中につき、駐車場は用意しておりません。公共交通機関をご利用下さい。

# 国史跡 山王囲遺跡の再評価にむけて

当センターでは、北日本の資源利用の変化を探るべく、これまで調査されつつも資料化や分析がされていなかった資料、さらには先端的分析法で新たな展開が期待できる考古資料を再検討しています。縄文時代における漆工品の材質・技法に関する研究を推進しており、これらの成果を地域に還元することを目的としています。特に、縄文時代の漆工品に対して、X線CT(X-ray Computed Tomography)を観察手段とし、3次元画像解析を応用した調査方法を確立しました。これにより、非破壊による調査が重要視されるなか、縄文漆器の技法研究を飛躍的に向上させました。これまで、青森県・秋田県・岩手県内の縄文漆器を調査してきました。

山王囲遺跡(さんのうがこいいせき)は、北上川下流域の宮城県栗原市に所在する縄文時代晩期から弥生時代前期の集落跡です。当センターでは、2016年1月に栗原市教育委員会と5カ年計画で研究協定を結び、遺物の総合的分析と保存を共同で行っています。

本展示では、中間報告と致しまして、北上川下流域の縄文時代晩期から弥生時代の特徴的な遺物を公開するとともに研究の進捗状況をお知らせします。



CTで分かった漆櫛の内部

遺物の整理・実測

電子顕微鏡と
元素マッピングによる
漆の塗り重ねの観察

X線CTによる遺物内部の観察

## 国史跡 山王囲遺跡

山王囲遺跡は、1962年(昭和37年)に明治大学による調査が行われたのち、1964年(第1次)に興野義一氏と一迫町(現 栗原市)教育委員会、1965年(第2・3次)に一迫町教育委員会依頼のもと伊東信雄教授を中心とする東北大学文学部考古学研究室により発掘調査が行われました。

伊東信雄教授、須藤隆教授による概報によれば、1965年の調査で縄文時代晩期中頃から弥生時代中期にかけての約4000点にのぼる土器のほか、石器や土偶・土版・耳飾・土玉などの土製品、櫛や籃胎漆器などの漆製品、骨角器といった生活文化に関わる多彩な遺物が層位的に出土しました。特に遺跡が水分の多い低湿地にあったため、本来ならば腐って残らない植物性の遺物や動物性の遺物が発見され、縄文時代晩期の豊かな物質文化が証明されました。

さらに弥生時代の資料がまとまって出土したことにより、東北地方の弥生時代の実態を解明するうえで重要な遺跡です。

これらの成果から、1971年(昭和46年)、国の史跡に指定されました。

●弘前駅から　バス：約15分…弘前駅前(中央口)【3番のりば】「小栗山・独鈷線」または「学園町線」に乗車、【弘前大学前】で下車